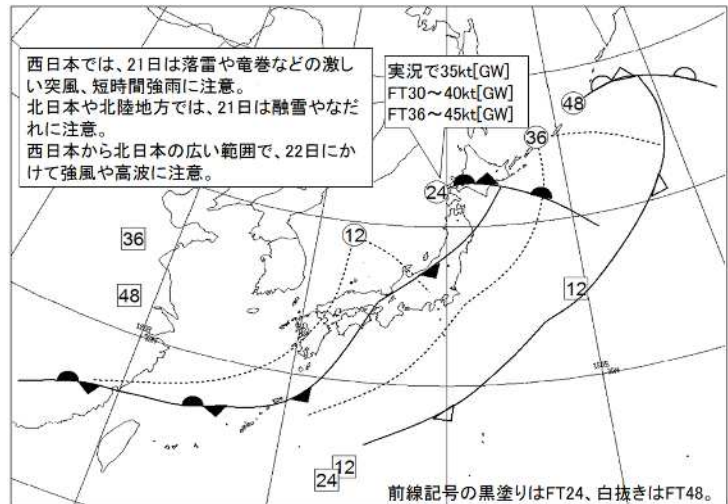


短期予報解説資料 2019年3月21日03時40分発表

気象庁 予報部

1. 実況上の着目点

- ① 黄海には、500hPa5580～5700m 付近のトラフが進み、朝鮮半島付近には対応する前線を伴った低気圧があって、発達しながら東に進んでいる。低気圧や前線周辺では、気圧の傾きが大きく、九州では海上を中心に風が強くなっている。低気圧の南側には下層の暖湿気が流入し、対流雲が発達し、東シナ海から九州の西では発雷を多数検知している。
- ② 中国東北区の 500hPa5400～5520m にトラフがあって東進、衛星水蒸気画像では、対応する暗化域が明瞭。
- ③ 21 時の高層観測、秋田では 850hPa で 6.6℃を観測、平年よりも 11℃以上高くなっている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1 項①の低気圧は日本海を東北東に進み、21 日夜には北日本に接近。1 項①のトラフは 21 日朝には北日本付近に進んで不明瞭となる。低気圧は 21 日夜に 1 項②のトラフが日本海に進む影響で、再び発達を始める。低気圧や前線の東進に伴い、北日本から西日本では気圧の傾きが大きくなり、風が強く、波が高くなる。21 日は、広い範囲で荒れた天気となる。強風や高波に注意。
- ② 寒冷前線が通過するまでは、西日本を中心に暖湿気 (850hPa θ e327K 以上) が流入、大気の状態が非常に不安定となるため、落雷や竜巻などの激しい突風、短時間強雨に注意。
- ③ 2 項①の低気圧の影響で、広い範囲で南風が強まる。また、1 項③で観測された気温の高い状態は、前線が通過する 22 日はじめまで続く。北日本や東日本の多雪地では、降水も伴うため雪解けが進む。融雪による土砂災害や浸水害、なだれに一層の注意が必要。
- ④ 22 日朝からは西高東低の冬型気圧配置となる。寒気移流も強まり、22 日夜には 850hPa で -6℃以下の寒気が北陸地方まで南下する。北海道を中心に大雪による交通障害に注意。北日本から西日本の広い範囲で風が強く、波が高い。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は GSM を基本とする。量予想や降水分布は MSM も参考とする。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(06 時からの 24 時間) : 多い所 (100 mm以上) はない。
- ② 波浪(明日まで) : 北海道 4、東北～西日本の広い範囲で 3m。
- ③ 高潮 : 大潮期間で潮位が高く、瀬戸内海を中心に高潮に注意。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。